

平成 25 年度 事業報告書

1. 法人の概要

設置する学校・学部・学科

国立音楽大学

音楽学部

演奏学科、音楽文化デザイン学科

音楽教育学科

別科

大学院

音楽研究科

国立音楽大学附属高等学校

音楽科

普通科

国立音楽大学附属中学校

国立音楽大学附属小学校

国立音楽大学附属幼稚園

役員概要

理事会

理事長 庄野 進

監事 佐藤敏明

藤瀬 學

理事 内野好郎
神原雅之
久保田慶一
田宮 茂

長尾達則
花岡千春
武田忠善

大学

学長 庄野 進

副学長 神原雅之 副学長 花岡千春

中学校、高等学校 校長 荒木泰俊

小学校 校長 横澤敬蔵

幼稚園 園長 松沢孝博

学校法人の沿革

学 校 法 人 の 沿 革 (概 要)	
大正 15 年 4 月	東京高等音楽学院創立(仮校舎を東京市四谷区番衆町)。 予科、本科(声楽・器楽・作曲)、高等師範科を置く。初代学院長渡辺敢。
11 月	国立大学町(昭和 27 年・1952、文教地区に指定される)に校舎が竣工し移転。
昭和 3 年 12 月	新交響楽団(現NHK交響楽団)との共演でベートーヴェン“第九交響曲”の合唱として初出演、現在に至る。
昭和 16 年 8 月	私立の音楽学校として初めて文部省より中等学校音楽科教員無試験検定を認可。
昭和 22 年 7 月	国立音楽学校と改称。
昭和 23 年 5 月	財団法人国立音楽学校となる。
昭和 24 年 1 月	国立音楽高等学校・国立中学校設置認可。
昭和 25 年 2 月	国立音楽大学に昇格(声楽・器楽・作曲・楽理・教育音楽)。学長 有馬大五郎。
7 月	国立幼稚園設置認可。
9 月	楽器研究所附設設置認可。
昭和 26 年 2 月	学校法人国立音楽大学に組織変更。
4 月	別科(作曲・声楽・器楽・調律専修)設置認可。 附設保育科設置(幼稚園教諭養成機関として認可・1年制)。
昭和 28 年 5 月	国立音楽大学附属小学校設置認可。
昭和 30 年 4 月	大学に第2部を設置認可。
昭和 31 年 4 月	専攻科(作曲・器楽・声楽・楽理・教育音楽専攻)設置。保育科を改組し、 幼稚園教諭養成所(幼稚園教諭養成機関として文部省より認可・2年制)とする。
昭和 35 年 2 月	幼稚園教諭養成所が各種学校として認可。
昭和 37 年 4 月	別科は調律専修を除き学生募集停止。
昭和 38 年 4 月	幼稚園教諭養成所を発展的解消し、教育音楽学科に「幼児教育専攻」として増設。 国立音楽高等学校に普通科を増設。
昭和 43 年 3 月	大学院音楽研究科(修士課程)を設置。
昭和 44 年 3 月	専攻科廃止。
昭和 50 年 3 月	附属の各校(園)名を変更し統一する。 国立音楽大学附属音楽高等学校 国立音楽大学附属中学校 国立音楽大学附属小学校 国立音楽大学附属幼稚園
昭和 51 年 4 月	音楽研究所、楽器技術センターを設置(楽器研究所は発展的解消)。
昭和 53 年 3 月	大学位置変更(立川市柏町)。 附属音楽高等学校・中学校位置変更(国立市西)。
昭和 54 年 6 月	大学第2部廃止。
昭和 62 年 12 月	大学に音楽デザイン学科・応用演奏学科の2学科設置認可。
平成 16 年 4 月	大学学科再編(演奏学科・音楽文化デザイン学科・音楽教育学科)、収容定員減及びカリキュラム 改編。
平成 16 年 4 月	附属高等学校普通科の男女共学化、及び校名変更(国立音楽大学附属高等学校)。
平成 18 年 11 月	大学院音楽研究科音楽研究専攻(博士後期課程)認可。
平成 23 年 4 月	大学に演奏学科ジャズ専修を新設。
平成 23 年 9 月	新 1 号館落成式挙る。

2. 平成 25 年度事業の概要及び説明にあたって

平成 25 年度決算は 5 月 28 日の理事会、及び評議員会において承認されました。また監事からは、本法人の業務及び財産の状況は適切であるとの「監査報告書」が理事会及び、評議員会に提出されました。

3. 平成 25 年度事業概要

平成 25 年度の事業内容を 1) 教育研究事業 2) 施設の整備 3) 財政基盤の充実と経営管理体制の強化に分けて説明いたします。

1) 教育研究事業

大学学部・大学院

・教育研究施設の整備

安全で、充実した持続可能な教育環境の整備として、今年度は 5 号館の耐震改修を行いました。教育を担保する研究のための個人研究室を集約し、これまでより広く、快適な研究室が整い、大学院の学生のためのスペースも確保しました。これにより、小規模なゼミの開催や、学生との面談にも活用出来るようになりました。

・教育改革の第 2 ステージ

教育改革の第 2 ステージとして実施した演奏・創作学科と音楽文化教育学科への再編および音楽文化教育学科のカリキュラム改編や一新した教養科目群等の改編の文部科学省への届け出が受理され、中高免許、および幼稚園免許の教職課程も再認可されました。また、新たな特別給費奨学生入試、大学入試センター試験の導入による新しい入試も、混乱なく実施され、成果を挙げました。入試広報として開催場所を全国 8 ヶ所に拡大して、演奏クリニックを中心とした新たな進学ガイダンスを行い、これまでにない多数の参加者が来場しました。これらに対応すべく導入された新たな学務システムも順調に整えられ、平成 26 年度から稼働できることになりました。

・演奏会

演奏・創作教育の成果発表として実施される各種の定期演奏会は、今年度も充実したものとなりました。7 月のオーケストラ定期では、準・メルクル招聘教授の指揮による演奏が、観客に深い感動を与えました。ブラスオルケスター定期では、お馴染みの F・ブーランジェ氏により、芸術としての吹奏楽の可能性を示すものとなりました。12 月のオーケストラ定期では、山下一史氏の指揮により、また、シンフォニック ウィンド アンサンブル定期では M・スキャッターデイ氏の指揮、ソリストにマリンバの塚越慎子氏を招き、高度な演奏を披露しました。

・キャリア支援の充実

新たにお問い合わせしたキャリアカウンセラー 2 名により、より充実したキャリア支援が可能となりました。また、卒業生が採用された、学校、幼稚園、企業へのアンケートとインタビュー

一を行い、本学の卒業生が社会的にどのように評価されているか、強みや課題は何かをさぐり、それを「キャリアブック2」として配布しました。

・学生支援

経済的理由で学費を納入するのが困難な学生への支援として、特別奨学金など、今年度も継続しました。東日本大震災の被災学生への学費免除も継続しました。

・海外音楽大学との提携と交流

タイのマヒドン音楽大学、ヴェトナムのホーチミン市立音楽院、ソルボンヌ大学、バーゼル音楽院、ジュネーヴ音楽院、カリフォルニア芸術大学（CalArts）と、新に交流協定を締結しました。マヒドン音楽大学とは、教員の交流が始まり、マヒドンからヤンプライ先生が本学で特別講演を行い、本学からは横井雅子先生がマヒドンで講演を行いました。ホーチミン市立音楽院とは、ヴァン・ティ・ミン・フォン学長が本学を訪問し、本学より花岡千春先生が招聘され、マスタークラスを実施する等実質的な交流が始まっています。

・大学院オペラ

大学院では、オペラ公演が今年度も高い水準で行われ、博士後期課程では、3名に博士号が授与されました。

・音楽研究所

音楽研究所の2つのプロジェクトも順調に稼働し、オペラ演奏研究プロジェクトでは、ニーノ・ロータの「フィレンツェの麦わら帽子」等が上演されました。

・楽器学資料館

楽器学資料館のピアノプロジェクトは、6月にレクチャーコンサート「歴史的ピアノが奏でる名曲の調べ」が行われ、好評を博しました。

・4号館の耐震改修計画

図書館、楽器学資料館、音楽研究所が設置されている4号館の耐震改修計画に伴う、施設面での改善の検討が行われました。工事の実施は平成27、28年の予定です。

附属中学校・高等学校

・新入生

平成25年度は中学校67名、高等学校139名（音楽科90名、普通科49名）の計206名の新入生を迎えてスタートしました。

・本校を希望する生徒の確保に向けて

受験希望者に、実技・ソルフェージュ・学科指導を行う「KUNION講座」に加え、平成25年度には新たに「音中コース」を新設、従来より実施している音高受験のための講座も含め、より充実した内容としました。また夏休み期間には、本校への関心の広がりを目指して、近隣の小学生を対象とした「楽器作り教室」を実施しました。

・教育環境の整備

テニスコートの改修を行いました。これにより、従来は天候に影響されることの少なくなかったコート

を、安定して使用できるようになりました。

・演奏会など

首都圏の音楽高校より選出された演奏者をお迎えし、国立市民とともにその音楽を聴く「第 9 回招待演奏会」(共催:国立市)、本校で最も長い歴史を持つ「第 61 回くにたち音楽会」等の演奏会に加え、高校音楽科生徒会主催の出張コンサート「クリスマスコンサート」(立川病院と国立あおやぎ苑)、地域の方々を本校にお招きする地域謝恩コンサート「スプリング・フェスティバル」などが行われました。また、国立市のメインストリート大学通りの高さ 10m を超える銀杏の木が、年末・年始にイルミネーションをまとい街を輝かしく照らす「イルミネーション点灯式」では、高校金管楽器専攻生が山本康雄教諭作曲の「ファンファーレ」を演奏したほか、中学高校合唱部と音楽科プラスバンド部が「花祭りコンサート」、「クリスマスコンサート」(ともに国立大学通り)で演奏し、多くの市民の方々に喜んでいただくことができました。

・東日本大震災で被災された方へ

中学高校合唱部が行ってきたクリスマス・チャリティコンサートは第 9 回目となる平成 25 年度も、大学通りの喫茶白十字に会場を提供していただき実施されました。会場には溢れんばかりの市民の方々をお迎えし、託していただいた義援金全額を日本赤十字社を通じて、東日本大震災の被災地に寄付しました。また、高校合唱部第 19 回定期演奏会もチャリティコンサートとし、義援金を東日本大震災被災地にお贈りしました。

・国際交流

ベルリンの名門・カニジウス高校が来日し、東京公演に高校オーケストラが出演しました。このコンサートでの日独合同演奏は、吉野薫講師の指揮により、あたたかさの中に若々しい情熱あふれる演奏となりました。また、カニジウス側の強い希望で、両校オーケストラに高校合唱部も加わり、震災復興支援ソング「花は咲く」を演奏しましたが、オーケストラと女声合唱のための編曲も、新たに両校スタッフが作成、意義深い演奏となりました。

附属小学校

・教育内容の充実

音楽(音楽 A と音楽 B)では、新カリキュラムがさらに定着するように力を注ぎました。音楽 B では、楽器を取り入れることにより、教育活動の幅をさらに広げることができました。造形では、子ども達の豊かな感性が育まれ、12 月の造形作品展で子ども達の個性の光る作品が数多く展示されていました。平成 26 年度から 3.4 年生の英語の授業を週あたり 2 時間にすることが決定しました。内容の充実を目指し、平成 25 年度は、英語の研究授業や研究会なども積極的に行いました。その他の教科についても、例年と同様、学年毎に活発な研究会を行い、教師の授業実践力の質的向上を図りました。

・生活指導の徹底

登下校における児童の安全と、通学時の列車、バス等でのマナーについて、指導の徹底を図りました。また、通学路の歩行マナーなどについても、問題点があれば、その都度指導

しました。「音小新しいなかま手帳」「音小っ子」等の学校からの配布資料により、生活指導に関する内容を保護者の方にもお知らせし、内容を共有するようにしました。

・避難訓練と災害対応

例年同様、平成 25 年度も火災・地震・不審者対応避難訓練、そして集団下校訓練、緊急時児童引き取り訓練、教職員対象の防災訓練を行いました。本校では、緊急の内容を伝えるモバイルメールのシステムがありますが、テストメールなどを流して、家庭が連絡を受ける練習なども行いました。1月の集団下校時に登下校「お守り」訓練も行い、多くの保護者の方にも参加していただき、大変有意義な訓練を行いました。

・応募者増の広報活動

平成 25 年度 5 月の幼児教室対象学校説明会を皮切りに、各学校説明会の内容に工夫を加え回数を増やしました。公開授業や DVD による学校紹介、ミニ講演会、プレスクールなどを学校説明会の内容に加え、それぞれ違った角度から学校の良さをアピールできるように考えて行いました。その他にも、8月の東京フォーラムの私立学校展、3月の中央線沿線私立小学校合同相談会など、外部に出での学校説明会にも参加しました。これらに加えて、平成 26 年度は新宿で行われる私立小学校合同相談会にも参加を予定しています。

教育目標を効果的に達成するために、前年度の成果と課題を踏まえて、必要があれば修正し、システムの再構築を考えて教育活動を進めてまいります。

附属幼稚園

・施設設備の整備

長年使用していた遊戯室の空調設備が更新されたことにより、さらに快適に過ごせるようになりました。

・総合リズム教育を基本に据えた保育内容の充実

初代園長の小林宗作が唱えた総合リズム教育の理念を基本に、幼稚園生活の中で園児がいろいろな体験を積み重ね、豊かな経験となるように、職員が研鑽を重ね一丸となり、保育内容の充実をめざしました。尚、年間の保育日数も 195 日を確保しました。

・保育後の園庭開放・子育て支援事業

子育てをしている地域の方々に対して、よりよい子育て環境づくりの一助となるように、園庭開放、親子リトミック、親子製作遊びや夏と冬の親子コンサート等 20 回開催致しました。尚、参加率の高いのは、夏と冬のコンサートと親子リトミックです。また、週一回園長による子育て相談室も開設しました。

2) 施設の整備

・キャンパス整備計画に基づき、大学 5 号館の耐震及び教室と教員研究室の改修工事を行いました。

・银杏寮の空調設備改修の第 2 期工事を実施し、全ての工事が完了しました。

3) 財政基盤の充実と経営管理体制の強化

- ・平成 17 年に購入した大学キャンパス隣地の売却を完了しました。この土地は新 1 号館建設にあたっては、工事の作業現場として使われましたが、今後、この土地を活用して新規事業を拡張することは考えにくいことから売却したものです。
- ・昨年に引き続き、奨学寄付金等の募金活動を行いました。
- ・経常費補助金に加え、5 号館の耐震工事に際し、学校施設耐震改修事業等に対する補助金を受けました。
- ・内部管理体制強化の観点から、内部監査を行いました。対象部門は、理事会事務室と総務部でした。

4. 平成 25 年度決算及び財務の概要

(数字は 10 万円単位を四捨五入して百万円単位で説明いたします。)

「資金収支計算書」が資金の収支（フロー）計算であるのに対し、「消費収支計算書」は企業会計で言えば損益計算書にあたるものです。学校の正味資産の増減を計算する機能を持ち、収支の均衡状況や学校財政の状態をみる上で、大切な役割を果たしていると言えます。そこで消費収支計算書から概要を説明いたします。

1) 消費収支計算書

(1) 消費収入の部

「学生生徒等納付金」は 4,629 百万円で、予算比 13 百万円の減少になりました。前年度実績比 123 百万円の減少です。

「手数料」は入学検定料が主体ですが、32 百万円で予算比 1 百万円の増加です。

「寄付金」は 41 百万円で、予算比 10 百万円の増加でした。

「補助金」は 1,058 百万円で予算比 4 百万円の増加となりました。内訳は国庫補助金で 616 百万円、東京都補助金で 442 百万円です。大学 5 号館の耐震工事に対する補助金等の特殊要因もありましたが、平成 25 年度も 10 億円台に達しました。

「資産運用収入」は 92 百万円で、予算比 1 百万円の減少でした。

「事業収入」は補助活動収入で 28 百万円、演奏会収入で 17 百万円、合計で 44 百万円です。

「雑収入」は 113 百万円で、内訳は私立大学退職金財団からの交付金収入が 28 百万円、東京都私学財団交付金収入が 65 百万円、その他の雑収入が 21 百万円です。

この結果、帰属収入は 6,079 百万円となり、予算比 10 百万円の減少となりました。

基本金組入額に関しては、1 号基本金が 5 号館耐震改修工事に伴う組み入れがありますが、一方で、土地売却に伴う取崩しがあり、これらを相殺すると、255 百万円の取崩しとなり、組入額額は奨学寄付金受け入れに伴う 3 号基本金の 3 百万円にとどまりました。

以上により「消費収入の部合計」は 6,076 百万円となり予算比 31 百万円の増加となりました。

(2) 消費支出の部

「人件費」は3,651百万円で予算比68百万円の減少となりました。前年度実績比では、42百万円の減少です。

「教育研究経費」は1,730百万円となり、当初予算を29百万円上回りましたので、予備費を使用しました。前年度実績比では73百万円の増加となりました。これは減価償却費が734百万円で、前年度実績比33百万円の増加した影響もあります。

「管理経費」は、355百万円となりました。予算比8百万円の減少ですが、前年度実績比22百万円の増加です。

「資産処分差額」は除却した資産の残存価額を処分差額として計上するもので、当初予算を14百万円上回ったので、予備費を使用しました。

以上から「消費支出の部」の合計は5,760百万円となりました。この結果当年度の消費収入超過額は316百万円となりました。基本金組み入れ前の帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支は、319百万円の収入超過となりました。

前年度繰越消費支出超過額3,462百万円から当年度消費収入超過額316百万を差し引き、さらに基本金の取り崩し255百万円を差し引き、次年度への繰越消費支出超過額は、2,891百万円になりました。

2) 資金収支計算書

消費収支計算書と重複する科目は省略し、ここでは消費収支計算書と処理が異なる項目について説明いたします。

(1) 収入の部

「寄付金収入」は、消費収入の寄付金額から現物寄付を時価換算した4百万円が差し引かれた37百万円で、予算比7百万円増加しました。

「資産売却収入」は3,255百万円となりました。内訳は国債の期日償還に伴う収入が20億円と、土地の売却収入等です。

「事業収入」は67百万円で、予算比31百万円の減少となりました。内訳は補助活動事業収入で50百万円、演奏会収入で17百万円です。

「前受金収入」は今年3月までに納付された授業料等の納付金ですが、これは平成26年度に該当するものなので、前受金収入として処理します。金額は905百万円で、予算比39百万円の増加となっています。

「その他の収入」は458百万円で、予算比71百万円の増加でした。主な内訳は前期末未収入金の回収が212百万円、貸与している奨学金の回収24百万円、仮払金の回収が54百万円、退職給与引当預金からの取崩し収入が150百万円です。

(2) 支出の部

「人件費支出」は3,732百万円で、当初予算比70百万円の減少です。

「教育研究経費支出」は996百万円で当初予算を8百万円上回りましたので予備費を使用しました。前年度実績比較では、40百万円の増加です。

「管理経費支出」は300百万円と予算比13百万円の減少です。

「施設関係支出」は1,020百万円で、予算比5百万円の減少でした。内訳は建物支出で1,015百万円、建設仮勘定支出で5百万円です。建物支出の主なものは、5号館の耐震改修工事に関わる支出です。

「設備関係支出」は284百万円で、支出の内訳は、教育研究機器備品支出が128百万円、その他機器備品支出に15百万円、図書等の購入に29百万円、ソフトウェアの購入で112百万円となっています。

「資産運用支出」は1,803百万円で内有価証券の購入で1,800百万円です。

「その他の支出」は311百万円で、奨学金の貸付金および前払金、前期末未払金支払支出、仮払金支出などに係わる支払いです。

3) 貸借対照表

「資金収支」「消費収支」の決算により、平成25年度末現在の資産、負債及び基本金の状況を表したものが「貸借対照表」です。

資産の部は、総額で309百万円の増加となっています。内訳は固定資産が1,051百万円減少し、流動資産は1,360百万円増加しました。主な要因は、土地の売却により固定資産が減少し、流動資産が増加したことです。負債の部では、退職給与引当金の減少81百万円により固定負債が89百万円減少し、流動負債は、未払金、前受金の増加により79百万円増加しました。

資料 1：過去 5 年間の帰属収支、消費収支の推移

(百万円)

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
①帰属収入額	6,090	6,053	6,207	6,111	6,079
②基本金組入額	△ 688	△ 1,928	△ 2,791	△ 826	△ 3
③消費収入額	5,402	4,125	3,416	5,285	6,076
④消費支出額	5,530	5,474	5,689	5,689	5,760
⑤帰属収支差額	560	579	518	422	319
⑥消費収支差額	△ 128	△ 1,349	△ 2,273	△ 404	316
⑦前年度繰越額	692	564	△785	△ 3,058	△ 3,462
⑧次年度繰越額	564	△785	△ 3,058	△ 3,462	△ 2,891

資料 2：学生、生徒数の推移

(名)

	平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		
	5/1 現在	前年比	5/1 現在	前年比	5/1 現在	前年比	5/1 現在	前年比	
大 学 院	85	△1	85	0	78	△ 7	75	△3	
学 部	1,844	△20	1,865	+21	1,865	0	1,827	△38	
別 科	10	0	11	+1	9	△ 2	7	△2	
高 校	音楽科	319	△7	286	△33	290	+4	276	△14
	普通科	135	△12	135	0	126	△ 9	136	+10
	(計)	(454)	△19	(421)	△33	(416)	△ 5	(412)	△4
中 学 校	227	+3	237	+10	219	△ 18	203	△16	
小 学 校	434	△4	441	+7	425	△ 16	395	△30	
幼 稚 園	114	+4	106	△8	93	△ 13	88	△5	
合 計	3,168	△37	3,166	△2	3,105	△ 61	3,007	△98	